自然環境学習　菅生子どもの森活動
「里山の整備体験～子どもにもできる！里山の手入れを体験してみよう！～」参加者募集

市では、子どもたちが豊かな自然とふれあい、自然環境の大切さなどを学ぶ里山体験プログラムを提供しています。

この活動の一環として、菅生地区にて、里山の整備体験を実施します。

▽**日時**　11月４日㈪　午前10時～午後２時
▽**場所**　菅生子どもの森広場とその周辺
▽**内容**　里山の整備体験
※雨天時は、室内での活動を予定
▽**講師**　吉田真人さん
▽**対象**　市内在住の小学校１年生～６年生（小学校２年生までは保護者同伴）
▽**定員**　10人（抽選）
▽**費用**　無料
▽**その他**　この活動は、市と委託契約を締結している特定非営利活動法人ふるさとの森づくりセンターが実施します。
▽**申し込み方法**　10月25日㈮までに、電子申請か電話で申し込んでください。
▽**申し込み・問合せ**　環境政策課環境の森推進係（☎595・1120）

電子申請

充電池搭載品（有害ごみ扱い）の適正分別にご協力ください

不燃ごみに充電池搭載品を混入して排出すると、スクラップにした際に発火することがあります。充電池類が原因の発火件数は、都内全域において直近５年間で約３倍に増加しています（東京消防庁ホームページ）。「充電池が取り外せない製品群」は有害ごみです。充電池が搭載されているか判断に迷う製品があれば、お問合せください。

▽**具体的な分別例**
●充電池が取り外せない製品群（有害ごみ）…スマートスピーカー、電子たばこ、モバイルバッテリーなど
●使用済小型電子機器…電気シェーバー、電動歯ブラシ、電子辞書端末、デジタルカメラ、コードレス掃除機、携帯型ゲーム機など
※掲載した製品はあくまで一例です。詳しくは、「あきる野市資源とごみの出し方カレンダー」をご覧ください。
▽**問合せ**　生活環境課清掃・リサイクル係

東京消防庁ホームページ

持込みごみのオフピーク（時期分散）にご協力ください

西秋川衛生組合への持込みごみが急増しています（表１のとおり）。年末年始は搬入量が増える傾向がありますので、比較的持込みが少ない10月、11月に分散して持ち込むようご協力をお願いします。

▽**持込みごみの受付**　祝日を含む月曜～金曜日（午前９時～正午、午後１時～４時）
▽**問合せ**　生活環境課清掃・リサイクル係

西秋川衛生組合への一般家庭からの持込みごみの台数と重量
表１　（実績値）

年度（年間持込み量）	搬入台数（台）	重量（kg）
平成28年（2016年）	5,036	315,240
令和　5年（2023年）	13,296	703,880

森林レンジャーがゆく（138）
「山ほど変わった」

寒冷な森林の代表的な野鳥であるゴジュウカラ。いよいよあきる野の低山での繁殖もあり？

８月中旬の猛暑日、目的地に向かって山を登っていましたが、いやになるほど暑苦しかったです。標高800ｍ以上の尾根に登り切ったら、やっとやわらかな風が時々吹いていたおかげで助かりました。あきる野の夏の山は、そんな感じですね。しかし、年々夏が過ごしにくくなっているのは実感できるかと思います。昔、日本の方に母国の気候について聞かれた時、「夏は40℃を超えますよ」と話したら、「へえ、信じられないなあ」と言われましたが、今の日本もそんな気候に変わってきました。その上、頻繁に起きる災害級の豪雨などで、本当に心配な時代になりました。

暑くてたまらない時の登山は、やはり生き物が支えになります。彼らも頑張っています。無数の天敵に狙われそうな中で植物を食べる幼虫たち、食べられるものならなんでも集めて必死に巣穴まで運ぶアリたち、木から木へと必死に虫や木の実などを採食する小鳥たち、地面の枯れ葉の間の餌を探るアナグマなどの哺乳類、器用に気流に乗りハンティングをする猛禽類たち、どれもたくましく素晴らしい存在です。

そんな暑い中で尾根を歩いていた時、ゴジュウカラの鳴き声が聞こえました。市内では、秋から春の非繁殖期はたまに見たり、鳴き声を聞いたりする亜高山帯の印象が強いゴジュウカラですが、繁殖期の終わりの時期にはまだあきる野にはいないとの認識でした。夏なら、奥多摩側などの標高1,000ｍ以上でないと見られない鳥というイメージです。今回の尾根の森林状況は、近年のナラ枯れの影響で立ち枯れ木が多く、猛毒のカエンタケがあちこちで見られました。更に、シカなどの採食圧によって草本などが少ない上、多様性の低いスギやヒノキの植林地に囲まれた尾根筋の二次林です。これらの理由と、近年の高温などの影響もあるためか、以前見られた多くの昆虫類や鳥類などの姿はほとんどありません。いつの間にか、「山の森」は苦しそうな姿に変わってしまいました。悲観的に聞こえても、現実です。しかし、立ち枯れ木が増え、樹木がまばらになり始めた明るい森林は、ある意味、「森の再スタート」を示しているようにも見えると思います。

今夏に「寒冷な広葉樹林」のゴジュウカラがいたことは少し例外ですが、ゴジュウカラは温暖化の逆風かのように、全国で分布を拡大しているとも言われ、近年の森の変化と関係しているかもしれません。以前は、見る機会が少なかったコサメビタキやリュウキュウサンショウクイといった野鳥も増加傾向にあり、あきる野の代表的な生き物になってきていると同時に、時代の移り変わりの目印となる種類にも見えます。（パブロ）

保存緑地と公開緑地の指定制度

市では、緑地を保全し、緑化を推進するため、保存緑地と公開緑地の指定制度を設けています。

表２の指定条件を満たし、「適切な管理のもと大事にしている」「先祖代々受け継いで大切にしている」など、長期的な保存や公開にふさわしい緑地をお持ちの方で、指定を希望する方は、連絡してください。指定は、市長が必要と認め、所有者などの同意を得た後に、緑地保全審議会に意見を求め決定します。保存緑地については、指定後、樹木の枯死を防ぐための管理経費など、保存に関する費用の一部を予算の範囲内で補助します。

▽**問合せ**　環境政策課環境政策係（☎595・1110）

表２　保存緑地と公開緑地の指定条件

保存緑地	樹林地	面積が500㎡以上の、健全で、樹木・樹林などの形容が美観上優れている地域
	樹木	次のいずれかに該当し、健全で、樹木の形容が美観上優れているもの ・1.5mの高さにおける幹の周囲が1.5m以上のもの ・高さが15m以上のもの ・株立ちした樹木で高さが３m以上のもの
	屋敷林	1.5mの高さにおける幹の周囲が1m以上の樹木が５本以上あるもの ※防風林など一団を形成し、美観上優れているもの
	生け垣	垣根として使用されているもので、少なくとも年1回以上せん定などの管理が行われ、生け垣の長さが30m以上のもの
公開緑地	・面積が300㎡以上で、健全で、樹木・樹林などの形容が美観上優れている地域 ・市民が散策などで自由に利用でき、5年以上継続して開放することができる地域	

高齢者げんき応援事業

▽**受付時間**　午前９時～午後５時（平日）
▽**対象**　市内在住の65歳以上の方
▽**担当課**　高齢者支援課高齢者支援係

開戸センター（☎550・2755）

▽**絵画教室**　手ぶらで参加できます。丁寧に指導します。
●日時…毎月第２・第４金曜日（祝日を除く）　午後１時30分～３時
●講師…中村清作さん
●定員…５人（申込み順）
●費用…１回千円

萩野センター（☎550・2722）

▽**健康講座（認知症について考えましょう）**　認知症に関して知識を深める講座です。
●日時…10月29日㈫　午後１時30分～２時45分
●内容…相談先、家族会、オレンジカフェの紹介、体操、詐欺被害についての注意喚起など
●講師…東部高齢者はつらつセンター職員
●定員…30人（申込み順）
●費用…無料
▽**男の台所**　キノコの炊き込みご飯と付け合わせを作ります
●日時…10月26日㈯　午前10時30分～午後１時
●講師…地域活動栄養士会のらぼうず
●定員…８人（申込み順）
●費用…６００円（材料費別）

五日市センター（☎533・0330）

▽**スマホ教室（入門編）基本的なスマホの使い方、注意事項などを教えます。**
●日時…11月12日㈫　午後２時～３時30分
●講師…あきる台病院システムエンジニア
●定員…５人（申込み順）
●費用…無料